



なおと
中村 直人さん(26)
研修作物：イチゴ

祖父母がブドウやキウイを栽培しており、幼い頃から農業への興味がありません。介護福祉士として働く中で思いが強くなり、就農支援センターへの入所を決意。どんな仕事でも健康が一番大切だと思うので、自分の限界を見極めながら地域に愛される生産者になりたいです。



まさき
宮尾 正樹さん(48)
研修作物：イチゴ

以前は消防士をしていましたが、思うように休めず、緊張状態が続く日々を送る中で転職を考えるようになりました。今では自然と、共に励む仲間に囲まれ充実した日々を送っています。就農後は部会の先輩方にかわいがられるよう、一生懸命頑張っていきたいです。



しゅうだい
辰田 周大さん(27)
研修作物：イチゴ

食品関係の広告業をしており、農家さんの話を聞くうちに自分もやってみたいと思うようになりました。未経験からのスタートなのでしっかりと先生の話聞いて基礎を身につけたいと思います。就農後は1年目から部会の平均所得を超えられるよう頑張っていきたいです。



ひろふみ
伊藤 宏文さん(46)
研修作物：イチゴ

以前から農業に興味があり10年ほど前からその思いが強くなりました。さまざまな就農施設をめぐり、サポートの手厚さに魅力を感じ、こちらの施設へ入所することに決めました。この一年間は、教えてもらったことを100%習得する気持ちで挑んでいきたいです。



じゅんじ
原田 淳二さん(46)
研修作物：ナス

営業職として誰かが作ったものを売るうちに「自分も作る側になりたい」と考えるようになりました。研修では教わるばかりではなく、まず自分で考える習慣を大切にしたいです。就農後は栽培技術の向上を最優先に、1人でできる限界を年々更新していきたいです。



JA就農支援センター第9期生

就農を目指し7人が入所



優れた担い手の育成や地域農業基盤の維持発展に取り組むJA就農支援センターに、新規就農を目指す第9期生が新たに仲間入りしました。今年はイチゴ栽培希望者6人、ナス栽培希望者1人が入所。1年をかけてJA営農指導員をはじめ茅島博敏さん(イチゴ担当)、高山宗茂さん(ナス担当)を講師に、生産者として必要な知識を学びます。



～JA就農支援センター施設紹介～

JA就農支援センターは、JA自己改革「農業生産の拡大」の一環として平成27年に開設されました。八女市、筑後市、広川町で就農を希望する人を受け入れ、農業実習や座学など1年間研修を行います。

部会から選任された農家指導者を中心に、JA営農指導員などから栽培管理について学び、農業経営については関係機関が一体となって座学を行います。

現在までに42人が卒業。それぞれJA軒先の遊休ハウス等を活用し生産者としての道を歩んでいます。



それぞれの道へ一歩前進!第8期生卒業

JA就農支援センターでは、5月31日、第8期生の退所式を開き、JA役職員や行政など施設関係者ら約30人が参加しました。

式では8期生それぞれから研修の振り返り、今後の目標が発表された他、一年間講師を務めた茅島博敏さん、吉田忠弘さんから応援のメッセージが送られました。

あいさつで、野中公彦JA組合長は、退所する8期生に向けて「農家になるということは1人の経営者になるということでありその責任は大きい。ここで学んだことを礎に、新たな農業の担い手として羽ばたいてほしい」と激励しました。



こうへい
村山 幸平さん(30)
研修作物：イチゴ

農業が身近な土地で育ち、長年興味はありましたが、踏み出せずにいました。ある時イチゴ園で働く妻から「農業は楽しい。一緒にやってみないか」と誘われ覚悟が決まりました。何事も完璧にはいきませんが、自分の中の最善を尽くし一人前の生産者になりたいです。



しんじ
中谷 慎二さん(50)
研修作物：イチゴ

長年接客業をしていましたが、勤務先のホテルが台風の被害にあったことやコロナ禍を経験し「辞め時を自分で決められる仕事がしたい」と思い就農を決意しました。農業は全くの未経験なので、教えられたことを無の状態からスポンジのように吸収していきたいと思います。